

翻訳文（下線は控訴人ら代理人による。）

卵管不妊手術（卵管避妊術）

著者：Robert K Zurawin, MD／編集主幹：Michel E Rivlin, MD（ほか）

5 手術の歴史

卵管不妊手術の歴史における主要な出来事は以下のとおりである。

1823 年、ブランデル（Blundell）が、ロンドン医学会において不妊手術のための卵管結紮を初めて提唱した。

1876 年、ポロ（Porro）が、不妊を副次的な目的として帝王切開による子宮摘出術を施行した。

1880 年、オハイオ州トレドにて、ラングレン（Lungren）が女性の卵管を結紮した最初の人物となった。

1885 年、トーマス（Thomas）が、不妊手術としてポロの術式に代わるものとして卵管結紮を提唱した。

15 1895 年、デュールセン（Dührssen）が二重結紮を用い、膣切開（コルポトミー）を介して卵管結紮を行った最初の人物となった。

1897 年、ケーラー（Kehrer）とビュットナー（Buettner）が、縫合糸の間に卵管を切離した。

1898 年、ルール（Ruhl）が子宮から 5cm の位置で卵管を切断し、その断端を膣の切開部に縫合した。

1898 年、ローゼ（Rose）が卵管角部（cornua）で卵管を切除した。

1919 年、マドレナー（Madlener）が非吸収性縫合糸で卵管を圧挫・結紮した。

1924 年、アービング（Irving）が、切離した卵管の近位部を子宮前面の小さな筋層内トンネルに埋め込む彼の術式を発表した。

25 1930 年、同僚らがポメロイ（Pomeroy）法を『ニューヨーク州医学雑誌（New York State

Journal of Medicine)』に死後発表した。

1936 年、スイスにて、ボッシュ (Bosch) が不妊手術の方法として初の腹腔鏡下卵管閉塞術を施行した。

- 1940 年代、ハジメ・ウチダ (Hajime Uchida／内田一) が、間欠的 (インターバル) または
- 5 産褥期の手技として実施可能な彼の術式を開発した。彼はその後、28 年間にわたる 20,000 件以上の卵管不妊手術の自身の経験について、既知の失敗例なしと報告した。[5]

1960 年代、卵管に対する単極 (ユニポーラ) 電気凝固をもって腹腔鏡手術の時代が始まった。単極および双極 (バイポーラ) の電気手術の双方に伴う失敗率と安全性への懸念が、高周波エネルギーを必要としない腹腔鏡用デバイスの開発につながった。

- 10 1973 年、ヤロスラフ・フルカ (Jaroslav Hulka) が、腹腔鏡下で適用できるスプリングクリップを考案した。[6]

1981 年、フィルシー (Filshie) がチタンとシリコン製のクリップを導入し、これはヨーロッパで広く使用された。米国に導入されたのは 1990 年代になってからであった。[7]

2002 年、Essure (エシュア) 子宮鏡下不妊手術が米国での使用を承認された。

- 15 2018 年、バイエル (Bayer) 社が、米国において Essure デバイスの販売および流通を停止することを発表した。

以上